

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:令和 01年 11月 5日

事業所名 児童発達支援ルームわかな

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個人指導と運動指導のスペースを確保	個人指導の部屋は仕切りをして落ち着いて、ことば音楽療法等が出来る場所を確保
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		空間を出きるだけ広く、自由に	前面が道路で危険なため、鍵を2重にする
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			安全に運動が出来る様に空間を確保
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日反省会をしている	月2回の会議
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送りに社員が同行	3ヶ月に1回訪問
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			月に1~3回更新
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者会がない	第三者会検討中
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月2回の会議	月1回の研修
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		日常の出来事、ニーズを聞く	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			細かいアセスメント作りをする
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者から相談を受けて、話し合いをする	地域支援、相談支援とコミュニティを取り地域交流をする
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			話し合いをして改善
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		話し合いを多く取る	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎日の反省会	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		日報、モニタリングを計画に行こう		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間で確認	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			話し合いの結果を共有
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日報を毎日個人別 に書く	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			3から6ヶ月に1回はする
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		常に出る	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		子育て支援と連携を取る
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		親、幼稚園と情報共有	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			お迎えに行ったとき情報を共有する
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		役所、連絡会に行く	研修は出来るだけ出席
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		イベントには兄弟の参加	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		連絡会に参加	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎は社員同行	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		送り時など家族様と話し合い	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		重説で説明	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			ニーズを聞いて計画書を作る

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎は社員同行	女性を同行して子育てのことを共有
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会を予定
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談支援等と常に話し合い	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報からホームページに移行	ホームページの充実
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			裁断機などを使用
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子育て経験者がメンバー	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		前に各学校の学校だよりを掲示	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			ヘルメット使用で訓練
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回の実行
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			契約時に聞く
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者から事前に聞く	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		その都度話し合い	みんなで共有
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年2回の研修	外部研修に参加
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			役所、相談支援などに相談

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。